

銀河レポート401

No. 41
10月

発行日：平成30年10月1日
編集&発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700
HP：<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/museum.html>

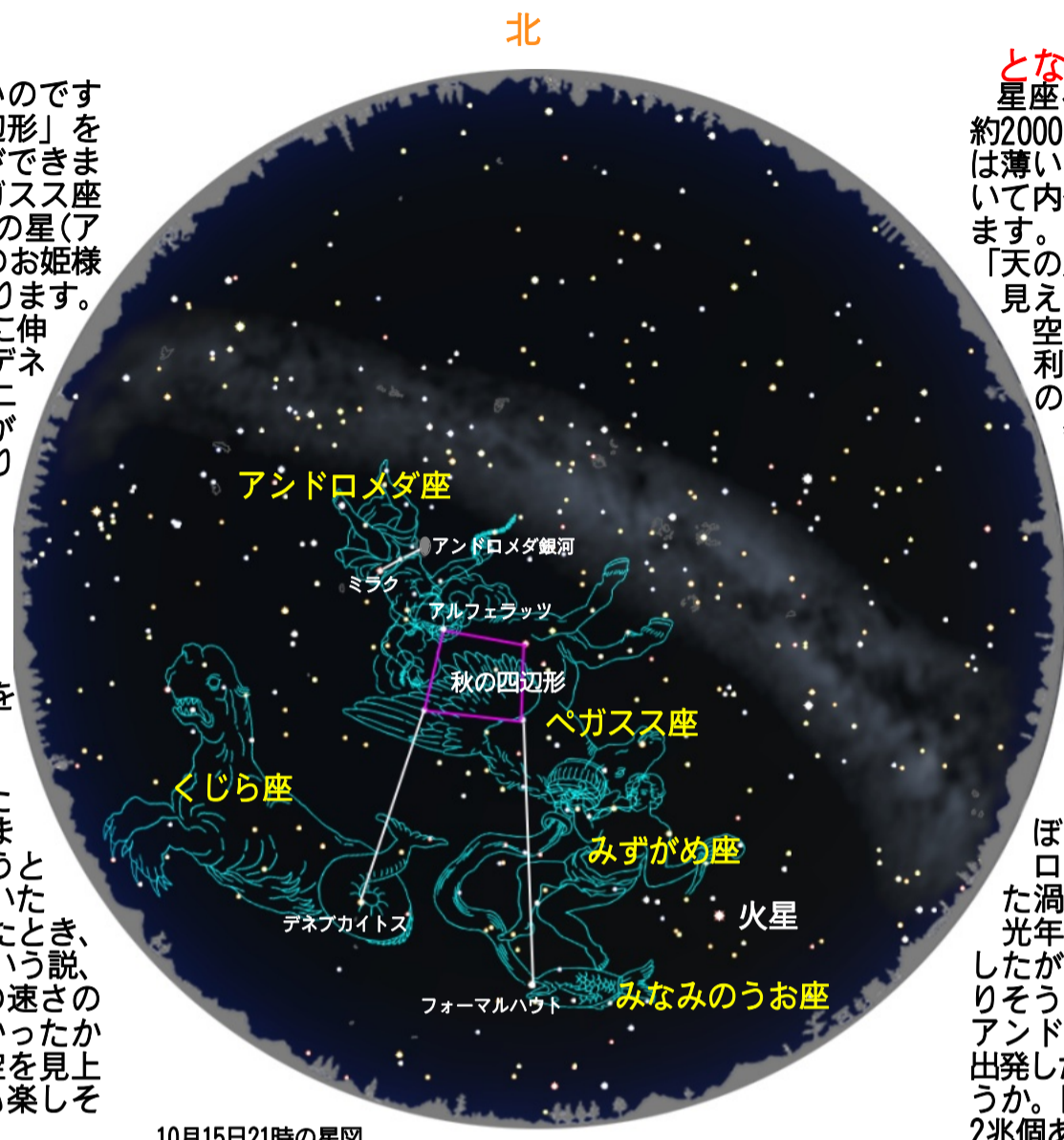
10月の星空

秋の四辺形と秋の一つ星

秋の星空はあまり明るい星がないのですが、南の空高くに見える「秋の四辺形」をもとに色々な星座や星を探することができます。四辺形をつくる三つの星はペガサス座の胴体部分を形づくり、残りの一つの星(アルフェラツ)は、古代エチオピアのお姫様であるアンドロメダ座の頭部にあたります。四辺形の東側の二つの星を結んで下に伸ばすと、くじら座の尻尾の星であるデネブカイトスが見つかります。西側の二つの星を結んで下に伸ばすと、みずがめ座を通して、みなみのうお座がありみずがめ座の瓶から流れる水(神酒)を飲んで魚の口で輝くフォーマルハウトと出会います。この星は秋の星空でたった一つの1等星で「秋の一つ星」とも呼ばれています。今年は火星が近くを移動しているので赤と白の二つの星を楽しめます。

ペガサス座

ペガサス座の星座絵には翼の生えた馬の姿の前半分だけしか描かれていません。神様がペガサスを星座にしようと思ったとき後ろ半分が雲にかくれていたからという説、怪獣キマイラと戦ったとき、下半身を食われてしまったからという説、光と速さ比べをしたときにあまりの速さのために後ろ半分がついてこられなかったからという説など様々です。秋の星空を見上げながら様々な想像をめぐらすのも楽しそうです。



10月15日21時の星図

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

となりの銀河

星座をつくる星々は銀河系と呼ばれる約2000億個の恒星の集まりです。私たちは薄い凸レンズの形をした銀河系の中にいて内側からこの銀河系の星々を見ています。夏には銀河系の星々が南の空で「天の川」としてよく見えますが、秋は見える銀河系の星の数が少なく暗い星空となります。しかし、この暗さを利用して、私たちのいる銀河系(天の川銀河)の外にある他の銀河を観察するチャンスでもあります。ただ、あまりにも遠くにあるので望遠鏡が必要になりますが、となりの銀河である「アンドロメダ銀河」だけは何とか肉眼で見られます。アンドロメダ座の恒星ミラクと西となりの星とをつないだ長さと同じ長さ分、西方向に伸ばした位置で見つかります。となりの銀河といっても光の速さで250万年かかる距離(250万光年)にあるため、ぼんやりとしか見えません。アンドロメダ銀河は、天の川銀河とよく似た渦巻き状の銀河で大きさ(直径10万光年)も同じぐらいと考えられてきましたが、最近の観測結果から2倍以上ありそうだとされています。秋の夜空でアンドロメダ銀河を探して250万年前に出発した光と出会ってみてはいかがでしょうか。NASAは、宇宙にはこんな銀河が約2兆個あると発表しています。

十三夜の月(栗名月)

旧暦8月の中秋の名月は中国から伝わったものですが、翌月の旧暦9月13日の月見「十三夜」は日本独自の風習です。中秋の頃より秋晴れの日が多いので月見に適しているようです。なぜ十三夜の月なのかについては諸説ありますが、わずかに欠けた月を愛でることが風流なのでしょう。月の形が栗の実に似ていて、栗の収穫の時期でもあるため「栗名月」とも言われ栗をお供えすることが多いようです。今年の十三夜は10月21日です。

天文ボランティア主催行事

- ガリレオ教室**
〈月のひみつ〉
私たちにとって身近な天体でありながら、月について意外と知らないことが多くあります。月のひみつについて天文ボランティアが映像等を使って楽しくわかりやすく説明します。
日時：10月14日(日)
①11時から11時20分
②14時から14時20分
- ボランティア工房**
〈牛乳パックでブーメランを作ろう〉
牛乳パックを使ってブーメランを作ります。色々な飛び方をするブーメランを工夫して作る楽しさを味わえます。
日時：10月28日(日)
①12時から13時 ②14時から15時
※場所はともに5階コズミックラウンジで実施します。(当日受付 参加無料)

開館25周年記念CDコンサート

星と音楽のプラネタリウム
♪ ジブリ特集 ♪
幅広い世代に人気のスタジオジブリの映画音楽を満天の星とともに高音質(ハイレゾ)でお楽しみいただけるCDコンサートです。
日時：10月20日(土)
18時30分から19時30分
(開場18時15分)
場所：5階GINGAPORT401コズミックラウンジ
定員：140席(自由席)
料金：一席600円
(1階総合受付にて前売り中)



★★観望会★★

- 《博物館主催流星群観望会》場所：伊坂ダムサイクルパーク管理事務所付近
10月21日(日) 19時から21時
「オリオン座流星群と栗名月観望会」
- 《博物館主催きらら号観望会》場所：博物館前市民公園
10月27日(土) 18時から19時30分
「火星と秋の四辺形をさがそう」

※天候不良時は中止です。
※当日の自由参加・無料です。
※流星群の観望会では天文ボランティア主催観望会も同時開催します。
※流星群の観望会にはきらら号は出勤しません。

10月の月

- 2日 下弦
- 9日 新月
- 17日 上弦
- 25日 満月

編集後記

イギリス人で日本在住の自然風景写真家ジョニー・ハイマスさんは「日本では夏の終わりが冬の始まりである」と言ってみえます。季節の変化の一瞬一瞬を秋として写真に切り取って見えるのでしょうか。日の出日の入りの時刻や気象状況等、秋の変化は急です。半袖から長袖、そして厚手の上着へと服装も変えながら星空を見上げるのも秋の星空観察の特徴ですね♪